The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国における日本古典文学研究の状況
Author(s)	謝, 立群
Citation	詞林. 2000, 28, p. 27-30
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67455
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

〈小特集　留学生から見た日本文学研究〉

中国における日本古典文学研究の状況

謝　立群

日本の古典文学は、中国の古代文学、文化と密接な関係にあるためか、中国の日本文学研究においてもホットなテーマの一つとなっている。本稿では、いくつかの項目に分けて、中国において日本の古典文学がどのように研究・紹介されているかを考察する。

一、研究文献の数から見る中国における日本古典文学の研究と紹介

中国における日本古典文学研究の状況を考える前に、先ず、中国における日本文学の研究や紹介の全体像を、研究文献の数から見てみたい。一九四九年の中華人民共和国樹立以後、一九九三年までの日本文学関係の研究と紹介は、『中国日本学文献総目録』（中国人事出版社・一九九五）に示されている。次の表はそのデータに基づいて筆者が統計したものである。

1、作品の評価と研究

総合　一一一部（うち、古典文学に関するものは三部。2.7％）
詩歌　一一二部（うち、古典文学に関するものは五三部。47％）
小説　二六八部（うち、古典文学に関するものは三四部。12.7％）

2、文学史・文学思想

総合　七四部（うち、古典文学に関するものは五部。6.7％）
戦後文学　四八部
作家論　二五八部（うち、古典文学に関するものは一部。0.3％）
詩歌　一四一部（うち、古典文学に関するものは九部。6.3％）
戯曲・シナリオ　一七〇部
（うち、古典文学に関するものは一部。0.7％）

3、*作品紹介（訳書・アンソロジー・ダイジェスト）
八七六部（うち、古典文学に関するものは八部。0.9％）

4、*中国文学と日本文学の比較論
四二八部（うち、古典文学に関するものは五九部。13.7％）

右の統計をまとめると、一九九三年までに、中国で発表された日本の古典文学に関する文献は一七三部となっている。

また、＊を付した項目について見てみると、部数の一番多い項目3では、八七六部のうち、七九五部が訳書である。日本文学の研究よりも、日本文学の紹介・翻訳の方が多かったと言えよう。項目4では、四二八部のうち、魯迅、郭沫若、周作人のような、日本留学を経験し、日本文学と密接な関係のある人と作品に関するもの二四八部を除いて、一八〇部となる。劉振瀛「日本近代文学中的自然主義与現実主義」（「北京大学学報」一九八一・六）、王長新「自然主義与日本自然主義文学」（「日語学習与研究」一九八四・四）、陳弘「日本現代非虚構文学浅探」（「外国文学動態」一九八七）のような論考が多いが、そのうち、日本の古典文学に関するのは五九部で、32.7％となる。この数からも、中国学者の日本古典文学に対する関心は、日本文学全体の中で、相当の比重を占めていることが分かろう。

二、研究分野から見る中国における日本古典文学研究

一方、研究範囲から見ていくと、作品とジャンルから言えば、詩歌の研究が一番多く見られる。先ほどの統計（1、作品の評価と研究）の「詩歌」の項目で分かるように、詩歌研究の50％近くは古典に関するものである。例えば、沈策「『万葉集』中的雑歌」（「四平師院学報」一九七九・四）、王錫碌「奈良朝文化与『万葉集』」（「日本研究」一九八四）、呂莉「万葉集から日本文学の形成を見る」（「日本学刊」一九九一）、「「西渡り」考―万葉集第四八首についての検討」（「日語学習与研究」一九九六）のような論考がある。『万葉集』、『古今和歌集』及び俳諧に関するものがもっとも多いが、謡曲、狂言に関するものはそれぞれ一部しかない。

詩歌以外のジャンルのものといえば、物語の『竹取物語』、『源氏物語』、『平家物語』、『太平記』、随筆の『方丈記』、『徒然草』などの作品が注目されている。その内、『源氏物語』がもっとも早く中国語に翻訳され、論考も数多くある。詳しくは張龍妹「中国における『源氏物語』研究」（「むらさき」第三十輯・一九九三・一二）を参照されたい。『源氏物語』関係以外の論考としては、武殿勛「『竹取物語』的出典」（「山東外語教育」一九八〇）、邱鳴「太平記における中国故事説話の方法」（「都大論究」一九九一・三）、丁国基「文学のための無常観の限界を破る作『方丈記』」（『日本文学研究』吉林大学出版社・一九九四）などがある。

三、研究方法から見る中国における日本古典文学の研究

研究方法から見ると、日本の古典作品または作家そのものについての研究はないわけではないが、主として比較対照の手法をもつものが絶対多数を占める。比較対照の範囲は大変

広く、視点もさまざまである。例えば、沈新林「両部驚人相似的巨著—論『紅楼夢』与『源氏物語』的異同」（塩城師範専門学校学報」一九八五・三）、計鋼「『三国志』与『平家物語』」（「日語学習与研究」一九八七・六）、邱嶺「試論『三国演義』与『太平記』中戦争描写的異同」（「福建師範大学学報」一九八九）、「『太平記』と『三国志』の構成についての比較研究」（『第二回日本学日中シンポジューム論文集』一九九一）、王長新「『水滸伝』与『南総里見八犬伝』」（「現代日本経済」一九九〇・二）、林少華「中日古代詠梅詩異同管窺」（「日語学習与研究」一九九二・一）、馬興国「唐代的伝奇小説与江戸文学」（「日本研究」一九九一・四）、丁国基「中日隠遁文学之我見」（『日本文学研究』一九九四）などがある。

日本古典文学における中国文学の受容に関する論文もある。例えば、馬興国「『遊仙窟』在日本的流伝及影響」（「日本研究」一九八七・四）、高文漢「試析中国古代社会対『源氏物語』的影響」（「日語学習与研究」一九九一・五）、馬興国「日本文学対『捜神記』的吸収与借鑑」（『中日比較文学論集』吉林大学出版社・一九九三）、陳岩「「貧窮問答歌」と漢晋時代の貧を詠った詩」（『日本文化研究』長春出版社・二〇〇〇）などがある。

四、研究機関と研究者

中国には、日本古典文学専門の研究機関はないが、日本文学の研究会として、古典文学も研究する学術団体が二つある。一つは中国日本文学研究会（会長は李芒）といい、全国各大学、研究所、研究者の連携を強化し、日本文学の研究を促進するのを目的とするものである。この研究会は三年間に一回学会を開き、その分科会で日本古典文学の研究発表がある。もう一つは中国中日比較文学研究会（会長は厳紹璗）である。不定期で研究会を開き、研究論文を発表することになっている。研究所として、北京日本學研究センター、北京大学中日文化与文学関係研究室、北京大学日本文化研究所、吉林大学中日近代文学関係研究室、武漢大学中日文化研究センター、大連外国語学院日本文化研究センターなどでは、日本の古典文学に関する研究が見られる。日本文学の研究者は三種類に分けられる。第一は大学の日本文学の教員で、教えながら研究を進める者である。第二は大学の中国文学の教員で、中国古典文学研究の視野から日本古典文学を研究する者である。第三は社会科学院の研究所で研究を専門とする者である。

五、中国で翻訳された主な古典作品

近代、現代の小説の翻訳に比べて、古典作品の翻訳は少ないが、今までに、中国で翻訳された主な古典作品をあげると、次のようになる。

『竹取物語』（抄訳）（金福訳・「世界文学」一九八〇）
『源氏物語』（豊子愷訳・人民文学出版社・一九八二）
『平家物語』（周啓明、申非訳・人民文学出版社・一九八四）
『落窪物語』（豊子愷訳・人民文学出版社・一九八四）
『日本古代随筆選』清少納言・吉田兼好著
（周作人、王以鑄訳・人民文学出版社・一九八八）
『浮世澡堂・浮世理髪館』
（周作人訳・人民文学出版社・一九八九）
『雨月物語』（閻小妹訳・人民文学出版社・一九九〇）
『南総里見八犬伝』（李樹果訳・天津大学出版社・一九九二）
『好色一代男』（王啓元等訳・漓江出版社・一九九六）
『好色一代女』（王啓元等訳・漓江出版社・一九九六）

近年になって、親しみやすい近世の庶民文学の翻訳の出版が目立っている。

六、最近の研究動向

最近の研究としては、山東大学の高文漢教授の『中日古代文学比較研究』（山東教育出版社・一九九九）がある。この本は第一章に、大和時代の神話比較研究、漢文学比較研究、懐風藻と中国六朝、初唐の詩歌の比較、万葉集に見られる中国文学の要素が書かれており、以下、平安時代の漢文学、竹取物語と中国民間文学、源氏物語に見られる中国文学の影響などの内容からなる第二章、鎌倉時代、室町時代に関する第三章、江戸時代に関する第四章と続く中国語四六万字の大作である。また、正式な学術団体ではないが、北京日本学研究センターの日本古典文学研究会（代表者は張龍妹）では、大学院生と若手教員を中心に、合宿、読書会を通じて、古典文学の研究をしている。同センターを中心に、古典文学研究辞典の編集もなされている。日本留学から戻った博士課程を修了した若手研究者の中には、いろいろな研究をしている人がいる。例えば、藤原定家の和歌の研究（北京大学・隽雪艶）、『古事記』の研究（首都師範大学・李均洋）、『万葉集』の研究（北京対外貿易経済大学・馬君）などがある。

残念ながら、中国には日本古典文学はいうまでもなく、日本文学の専門の研究誌がまだない。関連する文献目録も、『中国日本学文献目録』以後はない。研究の実状を正確につかむのは大変難しいことと言えよう。中国における日本古典文学の研究の一斑を紹介し、日本の古典文学研究の参考にでもなればと思う。

（しゃ・りつぐん　本学大学院博士後期課程）